

## I 学校経営方針

### 1 学校教育目標

豊かな人間性と確かな感性を持ち、たくましく生きる生徒の育成

### 2 目指す学校像

みんなが安心して過ごせる居心地の良い学校

### 3 目指す子ども像

確かな学力を身につけた生徒

基本的生活習慣を身につけた生徒

健康安全・命を大切にする生徒

## II 現状と課題

### 1 学力保障

数年来、基礎学力の定着に重点を置き、確かな学力を身につけた生徒の育成を研究主題として授業づくりに取り組み、授業改善を進めてきた。しかし、授業改善は進んでいるものの、昨年度の課題として「聞く力・話す力の不足」「基礎的知識が定着していない生徒へのわかりやすい授業づくり」「勉強に興味関心がない生徒への魅力的な授業づくり」「落ち着いて授業にのぞむための授業規律・マナーの確立」「家庭学習の習慣化」などが挙げられた。

そこで、今年度は「聞く力・話す力を伸ばす」ことを重点に授業研究を進めるとともに、「ひらたの〜と」を使った家庭学習の習慣化、さらに「学力保障支援システム」の構築を目指す。

また、特別支援教育における個別支援の充実を図る。

### 2 豊かな人間性の育成

人権を尊重し、仲間を大切にする生徒・集団の育成を目指して人権学習・道德教育等を推進してきた。しかし、生徒の中に「相手の気持ちを考えない心ない発言」や、「見て見ぬふりをするなど、解決に取り組む実践力がない」等の様子が多少見受けられ、いじめ根絶までにはいたっていない。

そこで、今年度は「ともに差別解消に取り組もうとする仲間づくり」「生徒が主体的に取り組める人権学習」「教職員研修の充実」を通して、仲間とともによりよく生きようとする生徒の育成、多文化共生教育の充実を目指す。

### 3 生徒指導

生徒は概ね落ち着いた学校生活を送っているが、基本的生活習慣が身につけていない生徒、規範意識の低い生徒が若干見受けられ、怠学・不登校生徒が増加傾向にある。

今年度は「あいさつや正しい言葉づかい」「規範意識」「時間を守る」等の指導の徹底とともに、関係機関やスクールカウンセラーと連携を取りながら「規律ある生活・楽しく安心安全な学校づくり」を目指す。

また、生徒会活動を通じて、「生徒相互の連帯」「人権意識」「規範意識」の高揚を図る。

#### 4 開かれた学校

昨年度は学校開放デー、学校・学年通信等により、学校の様子を積極的に発信してきた。学校行事等への保護者の来校数も増加傾向にあるが、学校教育への関心が強いとは言えない。また、ホームページでの発信が弱かった。

今年度は、保護者・地域との連携・協働の機会を設け、「コミュニティスクールの実践」「小中連携の充実」「ホームページの充実」を目指す。

### Ⅲ 中長期的重点目標

#### 1 学力保障

(1) 基礎的基本的な知識及び技能の習得

基礎学力を身につけるため、少人数指導を含めた学習体験の構築に努めるとともに、授業規律の徹底を図り、授業秩序の確立に努める。

(2) 家庭学習の定着

学習課題の出し方、その課題解決のためのアドバイス、課題提出後の点検・評価等について検討する。あわせて、家庭と連携をとり協力体制を構築しながら、家庭学習の習慣化に努める。

(3) 個別指導

各教科でつまずきのある生徒・低学力の生徒を対象に学習ボランティア等を活用しながら、補充学習、取り出し授業等を検討し、きめ細やかなはたらきかけに努める。

(4) キャリア教育

道徳・学活・総合的な学習の時間を利用し、系統的・体系的な進路学習を行う。

(5) 特別支援教育

特別支援が必要な生徒に応じた教育の推進に努める。

#### 2 豊かな人間性の育成

(1) 自分や仲間を大切にし、よりよく生きようとする生徒の育成に努める。

(2) 多文化共生教育の充実を図り、外国籍生徒の理解を深める。

#### 3 生徒指導

(1) 基本的な生活習慣（特にあいさつ）がしっかり身についた生徒の育成に努める。

(2) ルール・マナーを守れる生徒の育成に努める。

(3) 時間を守れる生徒の育成に努める。

(4) 専門機関との連携を深め、生徒の状況把握に努める。

(5) 生徒会活動を通して、自主性を養い、生徒相互の連携を深める。

#### 4 開かれた学校づくり

(1) 保護者・地域との連携を深め、学校の様子等を情報発信する。

(2) 保護者・地域との対話等により、学校に対する意見等を得て、より開かれた学校づくりを目指す。

(3) 各種アンケート等により、学校を診断していただく。

## IV 本年度の行動計画（手だてと指標）

### 1 学力保障

#### （1）授業改革・授業研究

- ① 「聞く力・話す力を伸ばす」ことを重点に授業研究を進める。
- ② 年3回の授業研究と全職員の授業見学に取り組む。
- ③ シラバスを生徒に配布し、学習への取り組み方を説明する。
- ④ 必達目標を設定し、生徒の到達度を検証したり、CRTを分析したりして、授業改善に取り組む。

#### （2）少人数指導

- ① 少人数学級編成に取り組む。
- ② 第2学年数学においてTTを実施する。
- ③ 取り出し授業により、困り感のある生徒、低学力生徒等の学習を保障する。

#### （3）学習ボランティアの活用

- ① 教育実習生に協力してもらう。
- ② 校区内小学校の先生の協力を仰ぐ。
- ③ 「夢工房」の講師を活用する。
- ④ 車椅子体験、いのちの出前講座など、福祉体験学習を行う。

#### （4）補充学習

- ① 学習支援が必要な生徒のために、定期テスト前に補充学習を実施する。
- ② 「ひらたの〜と」を使って、家庭学習の習慣化に取り組む。

#### （5）キャリア教育

- ① 高校の先生による出前講座を年2回実施する。
- ② 「ようこそ先輩」事業を実施する。
- ③ 職業体験学習を実施し、職業選択に役立てる。
- ④ 系統的・体系的な進路学習を行う。（道徳・学活・総合的な学習の時間を活用）

#### （6）特別支援教育

- ① 定期的な部会の開催（月1回）。
- ② 支援の必要な生徒のきめ細かい情報交換。
- ③ 支援会議の開催による支援内容等の検討。
- ④ 特別支援学級通信の発行。

### 2 豊かな人間性の育成

#### （1）人権教育

- ① 各学年別指導計画を作成し、実践する。
  - ・仲間づくりと人権作文（文化祭での人権作文発表）
  - ・人権学習（出会い学習や参加型体験学習を取り入れる）
  - ・人権メッセージ
  - ・人権アンケート
- ② 指導資料の収集および整理を行う。
- ③ 教職員に対して、人権教育関係の各種研修会への参加を呼びかけ、教職員研修を充実させる。

## (2) 多文化共生教育

- ① 定期的な部会（国際教室運営会議を含む）の開催（学期に2回程度）。
- ② 生徒・保護者の相談窓口と支援関係者の相談窓口を分化する。
- ③ 外国籍生徒と保護者対象の学校生活についての説明会を実施する。
- ④ 支援対象生徒の日本語力を把握した上で、具体的支援計画を作成、実施する。  
（バンドスケール判定会議の実施）
- ⑤ 支援員と支援時間（授業時間割・放課後・長期休業中）を確保する。
- ⑥ 支援員との情報交換（生徒の状況把握と支援内容の検討）を行う。
- ⑦ 多文化共生をテーマにした文化祭での発表展示を行う。
- ⑧ 外国籍生徒と保護者対象の進路ガイダンスを実施する。3年生については進路に向けた補充学習を行う。
- ⑨ 道徳との連携により、多文化共生の授業を実施する。

## 3 生徒指導

### (1) 生徒指導

- ① あいさつ、返事や正しい言葉づかいの指導。
  - ・あいさつ運動の推進と全校、学年集会等での指導。
- ② 規範意識が育つ指導。
  - ・全校、学年集会での指導を学活、道徳指導につなげる。
  - ・喫煙、万引き等に関する非行防止教室の開催。
- ③ 時間を守らせる指導。
  - ・全職員による毎朝の登校指導。
  - ・職員の授業時間（開始・終了）の徹底。
  - ・チャイム着席の徹底。

### (2) 教育相談

- ① 教育相談を学期に一度（生徒によっては適宜）行う。
- ② 定期的な部会の開催（週に1度）。
- ③ 登校することだけを目標にするのではなく、個々にあった対応を考えていく。  
（適応指導教室の開設、チャレンジ的な登校、教育研究所、各機関等）
- ④ 不登校生徒宅への定期的な家庭訪問で、保護者・本人との連携を密にする。
- ⑤ 必要に応じて、専門機関との連携を図る。

### (3) 生徒会

- ① 学級・学年を通じて「あいさつ」への取り組みを企画・運営する。
- ② 交通指導の活性化を図り、ヘルメット着用や交通安全を継続的に呼びかけ、ヘルメットかぶろう運動の10周年に向けた取り組みを行う。
- ③ 各行事等で「ひらっぴー」を用い、居心地の良い学校のシンボルとなるよう各委員会と協力して、人権活動に取り組む。
- ④ 清掃活動の充実による校内環境美化に努め、ボランティア活動への参加を呼びかける。

## 4 開かれた学校づくり

- ① 学校運営協議会を設置し、コミュニティスクールの実践に取り組む。
- ② 小中連携推進協議会を設置し、小中9年間の見通しを持って各種教育活動に系統的に取り組む。
- ③ 学校・学年通信、ホームページの充実に努め、学校の様子を積極的に発信する。なお、学校通信は地域にも回覧する。

学校教育目標  
目指す学校像  
目指す子ども像

豊かな人間性と確かな感性を持ち、たくましく生きる生徒の育成  
みんなが安心して過ごせる居心地の良い学校  
確かな学力を身につけた生徒  
健康安全・命を大切にする生徒  
基本的な生活習慣を身につけた生徒

## 学力保障(学力保障システムの構築)

中長期的  
重点目標

本年度の  
行動計画

基礎的基本的な知識  
および技能の習得

家庭学習  
の定着

個別  
指導

キャリア  
教育

特別支援  
教育

### 授業改革・授業研究

- ①「聞く力・話す力を伸ばす」ことを重点とした授業研究
- ②授業研究(年3回)と全職員の授業見学
- ③シラバスによる学習への取り組み方説明
- ④必達目標の到達度検証やC R T分析による授業改善

### 少人数指導

- ①少人数学級編成
- ②第2学年数学科においてT T授業実施
- ③取り出し授業による学習保障

### 学習ボランティアの活用

- ①教育実習生への協力要請
- ②校区内小学校の先生への協力依頼
- ③「夢工房」の講師の活用
- ④車椅子体験・いのちの出前講座等の福祉体験学習

### 補充学習

- ①学習支援を必要とする生徒に定期テスト前に実施

### キャリア教育

- ①高校の先生による出前講座を年2回実施
- ②「ようこそ先輩」の実施
- ③職業体験学習の実施(4日間)
- ④系統的・体系的な進路学習の推進

### 特別支援教育

- ①定期的な部会の開催(月1回)
- ②支援の必要な生徒のきめ細かい情報交換・進路補充学習
- ③支援会議の開催による支援内容等の検討・支援計画の作成
- ④特別支援学級通信の発行

家庭学習の習慣化 ①「ひらたの〜と」の活用

## 豊かな人間性の育成

中長期的  
重点目標

本年度の  
行動計画

### 人権教育

自分や仲間を大切にし、よりよく  
生きようとする生徒の育成

- ①学年別指導計画の作成・実践  
・仲間づくりと人権作文  
・人権学習(出会い学習・参加型学習)  
・人権メッセージ  
・人権アンケート
- ②指導資料の収集・整理
- ③教職員研修の充実(研修会参加等)

### 多文化共生教育

多文化共生教育の充実を図り、  
外国籍生徒の理解を深める

- ①定期的な部会(含国際教室運営会議)開催
- ②相談窓口の分化
- ③生徒・保護者対象の学校生活説明会の実施
- ④支援対象生徒の具体的支援計画の作成実施  
(バンドスケール判定会議の実施)
- ⑤支援員と支援時間の確保
- ⑥支援員との情報交換の実施
- ⑦多文化共生をテーマにした文化祭での発表  
展示を行う
- ⑧進路ガイダンスの実施と3年生補充学習
- ⑨道徳と連携した多文化共生の授業実施

# 生徒指導

## 中長期的 重点目標

### 生徒指導

- ・基本的な生活習慣（特にあいさつ）がしっかり身についた生徒の育成
- ・ルール・マナーを守る生徒の育成
- ・時間を守る生徒の育成

### 教育相談

専門機関との連帯を深め、生徒の状況把握に努める

### 生徒会

生徒会活動を通して自主性を養い、生徒相互の連携を深める

## 本年度の 行動計画

- ①あいさつ・返事や正しい言葉づかいの指導
  - ・あいさつ運動の推進と集会等での指導
- ②規範意識が育つ指導
  - ・集会での指導を学活、道徳指導につなげる
  - ・喫煙、万引き等に関する非行防止教室の開催
- ③時間を守らせる指導
  - ・全職員による毎朝の登校指導
  - ・職員の授業時間（開始・終了）の徹底
  - ・チャイム着席の徹底

- ①学期に一度（生徒によっては、教育相談を実施）
- ②定期的な部会の開催（週に1度）
- ③登校することだけを目標にするのではなく、個々にあった対応を考える（適応指導教室の開設、チャレンジ登校、教育研究所、各機関等）
- ④不登校生徒宅への定期的な家庭訪問で、保護者・本人との連携を密にする
- ⑤必要に応じて専門機関との連携を図る

- ①学級・学年を通じて「あいさつ」への取り組みを企画・運営する
- ②交通指導の活性化を図り、ヘルメット着用や交通安全を継続的に呼びかけ、ヘルメットかぶろう運動の10周年に向けた取り組みを行う
- ③各行事で「ひらっぴー」を用い、居心地の良い学校のシンボルとなるよう各委員会と協力して、人権活動に取り組む
- ④清掃活動の充実による校内環境美化に努め、ボランティア活動への参加を呼びかける

# 開かれた学校づくり

## 中長期的 重点目標

- ・保護者・地域との連携を深め、学校の様子等を情報発信する
- ・保護者・地域との対話等により、学校に対する意見等を得て、より開かれた学校づくりを目指す
- ・各種アンケート等により、学校を診断していただく

## 本年度の 行動計画

- ①学校運営協議会を設置し、コミュニティスクールの実現に取り組む
- ②小中連携推進協議会を設置し、小中9年間の見通しを持って各種教育活動に系統的に取り組む
- ③学校・学年通信、ホームページの充実に努め、学校の様子を積極的に発信する  
なお、学校通信は地域にも回覧する